

# 兵庫県のアシナガコガネ

(兵庫県甲虫相資料 113)

高橋 寿郎

兵庫県下に産するアシナガコガネ類 (Hopliini) は 2 属 3 種である。県下の分布に就いては未だ充分で無い点もあるが一応現時点での状況を眺めておきたい。

**Subfamily Melolonthinae** コフキコガネ亜科  
**Tribe Hopliini** アシナガコガネ族

## 1. *Hoplia* (*Euchromoplia*) *communis* Waterhouse, 1875

アシナガコガネ

本種は Waterhouse 氏により Nagasaki, Yokohama 産で新種記載された (Trans. Ent. Soc. London, P. 100, 1875)。その後新島・木下両博士は越後、東京、播磨、豊後を産地として図説された (1923)。Bates 氏は Leach 氏採集の Satsuma 産でもって *H. maculata* なる新種を記載した (Ent. Month. XXV, P. 298, 1889)。この種は *H. communis* の黒色紋のあるもので沢田博士は本種の変種として取扱れた (日本の甲虫, 2 巻, 1 号, P. 36, pl. VI, f. 2, 3, 1938)。その後野村氏は本種の forma としてこの種を取扱い *H. communis* に *f. typica* と *f. maculata* の 2 型あるとされた (Ent. Rev. Japan, 20 巻, 1/2 号, P. 54-56, 1968)。大体九州に産するものは黒色紋の出るものが多く、関東地方あたりでは黒色紋の無い個体が多いと。

本種の分布は本州、四国、九州となっているが、どちらかといえば関東地方には多くいる様で私の手許にも石田正明氏の御好意で千葉県、栃木県産の多くの標本を御恵送に預っているし、東京産の標本も多くある。兵庫県下の分布は六甲山、播磨の記録があるがその他には余り記録の無い種である。

亜属の特徴である各腹節の毛は少数で 1 列に並ぶということで *Hoplia* 亜属 (各腹節の毛は不規則に散在し、1 列に並ばない) とは区別されるのであるが余りはっきりしない。♂ の場合交尾器の形状が異なるので区別し易い。従って今迄の記録種が本種であるかどうかは若干疑問が残るが筆者も少数ながら県下産の標本を採集したり見たりしているので大変個体数が少ないが県下に分布しているようである。ただ余りにも個体数が少ないのでもっと調査をしなくては分布状況の推定をすることが出来ない。

産地：神戸市六甲山 [沢田, 1938]\*, 鬼ヶ平 [北村,

1937]。播磨 [新島, 木下, 1923]。多可郡三谷 (1 ♂, 8-VI-1975)。豊岡市愛宕山 (1 ♂, 20-V-1973, T. Takahashi leg.) [高橋, 1975]。

## 2. *Hoplia* (*s. str.*) *moerens moerens* Waterhouse, 1875

クロアシナガコガネ

本種は Waterhouse 氏により Hiogo, Nagasaki 産で記載された (Trans. Ent. Soc. London, P. 100-101, 1875)。その後沢田博士による図説 (1938)、野村氏の原色図説 (原色昆虫大図録, II, 甲虫, 1963) があり、さらに野村氏によってこの属の再検討がおこなわれ本亜種と subsp. *ohbayashii* に整理された (1968)。

本種は本州、四国、九州に分布するものであるが本州の中部、東部に分布するものは subsp. *ohbayashi* Nomura, 1968 (オオバヤシアシナガコガネ) として区別されている。したがって兵庫県に分布しているのは subsp. *moerens* Waterhouse ということになる。

体表の変化があり、前胸背基部、小楯板、上翅合部に淡黄緑色または青緑色の鱗片を布すものを *f. typica*、一見黒色のものは *f. nigrofusca*、淡黄緑色または黄色の鱗片を全面に粗布またはより密に布すものを *f. flavicans* と別けられている。兵庫県下 *f. typica* というのは大変少いようであり *f. nigrofusca* の方も余り多くない。*f. flavicans* の方は多くいる。全般に山地性の様で海岸線ぞいには分布していないように思う。前に *f. reini* Heyden ラインアシナガコガネとして記録した (1967) 種が野村氏の研究でラインアシナガコガネは九州にのみ分布する種で独立種として取扱れているので兵庫県に産するものは上記 *f. flavicans* Nomura になる。

forma *typica* Nomura, 1968。

産地：川西市笹部 [仲田, 1978]。宍粟郡福知溪谷 (1 ♀, 3-VI-1975, M. Yuma leg.)。

forma *flavicans* Nomura, 1968。

産地：多可郡三谷 (1 ♂, 8-VI-1975)。神崎郡大河内町川上 (1 ♀, 15-VII-1977)。宍粟郡音水 (1 ♂, 11-VI-1972), 坂ノ谷 (1 ♂, ♀, 9-1973, 1 ♂, 1 ♀, 22-VII-1979)。氷上郡 [山本, 1958], 神楽 (1 ♀, 1-VI-1951, Y. Yamamoto leg.)。豊岡市大岡山 [高橋, 1975]。養父郡氷の山 (2 ♂♂, 22-VII

\* 産地の所で [ ] の中のものは文献からの引用。( ) の中のものは筆者所有標本。

—1954, Y. Yamamoto leg., 2 ♀♀, 25—VII—1955, 47 ♂♀, 27—VII—1956, 51 ♂♀, 21—VII—1958)。美方郡扇の山〔湯浅, 1960., 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975〕。

forma nigrofusca Nomura, 1968。

産地：兵庫〔Waterhouse, 1875〕。小野市青野ヶ原 (16 ♂♀, 14—V—1940)。

### 3. *Ectinohoplia obducta* (Motschulsky, 1857)

#### ヒメアシナガコガネ

本種は Motschulsky 氏により Japan から *Hoplia* 属で新種記載された種である (Etud. Ent., 1857, p. 33)。Motschulsky 氏はさらに *H. sublicola* と云う種を記載している。これは一面黄色を呈するもので *f. sublicola* Mots. となる。Waterhouse 氏は Nagasaki の5月には多産するとして *E. variolosa* なる新種を図説記載した (Trans. Ent. Soc. London, 1875, p. 99, pl. 1 f. 2)。この種は Heyden 氏も Kioto から記録している (Dent. Ent. Ent. Zeit. XXIII. 1879, p. 339)。共に本種のことである。

Lewis 氏は1895年に Nagasaki, Hitoyoshi, Nikko を記録している (Ann. Mag. Nat. (6) XVI, 1895, p. 388)。新島, 木下両博士は多くの産地を掲げて図説され (1923), 沢田博士はこの類の再検討をされた (日本の甲虫, 2巻, 1号, 1938年)。大変分布が広く (樺太, 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島, 朝鮮, 蒙古) また少くとも日本では大変普通に産する種の1つである。

県下でも非常に多く産する種である。栗の花などに群っている。背面の色彩の変化が多くあり, 黒鱗全く消失して一面に黄色を呈するものを *forma sabulicola* (Motschulsky, 1857) という背面の様に黒色を呈するもの中間的なものも多くあるので特に型として区別して取扱う必要は無いかもしれない。

産地：津名郡開鏡 (bexs., 24—V—1942), 津名町大町〔堀田, 1974〕。洲本市安乎町〔堀田, 1974〕。先山〔堀田, 1979〕。川辺郡猪名川町上阿古谷, 木間生〔仲田, 1978〕。川西市多田 (lex., 19—VI—1938), 一の鳥

居 (lex., 22—VI—1952), 笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山 (lex., 10—VII—1953), 摩耶山 (lex., 17—VI—1959, Tsukaguchi leg.)〔増田, 橋本, 1941〕。鳥原 (lex., 12—V—1938, leex., 1—VI—1938, 3 exs., 10—V—1939, 4 exs., 23—V—1942), 山の街 (55 exs., 12—V—1949, 4 exs., 28—V—1949, 6 exs., 4—VII—1954, 2 exs., 7—VI—1952), 箕谷 (15 exs., 6—VI—1948), 藍那 (2 exs., 5—VI—1978)。三田市永沢寺 (lex., 3—VI—1978)。多可郡三谷 (lex., 8—VI—1975), 鳥羽 (lex., 19—VII—1975)。神崎郡大河内町川上 (2 exs., 4—VI—1977, 4 exs., 18—VI—1977)。相生市三濃山 (lex., 6—VII—1973, lex., 8—VI—1974, 16—VI—1974)。揖保郡〔大上, 1907〕。宍粟郡福知溪谷 (lex., 16—VI—1975, M. Yuma leg.), 音水 (lex., 24—VI—1973, lex., 15—VII—1973), 坂の谷 (lex., 9—VI—1973, 3 exs., 22—VII—1979)。氷上郡〔山本, 1958〕。養父郡氷の山 (2 exs., 22—VII—1954, lex., 25—VII—1954, lex., 25—VII—1955, 11 exs., 27—VII—1956)。美方郡扇ノ山〔湯浅, 1960., 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975〕。

forma caminaria Reitter, 1903

産地：神戸市六甲山 (lex., 4—VII—1965), 山の街 (2 exs., 28—V—1950, 2 exs., 7—VI—1958), 藍耶 (lex., 10—VI—1978)。宍粟郡坂の谷 (lex., 22—VII—1979)。養父郡氷の山 (lex., 27—VII—1956, 2 exs., 21—VII—1958)。

forma sabulicola (Motschulsky, 1857)

産地：神戸市山の街 (3 exs., 28—V—1950, 3 exs., 4—VII—1954, 3 exs., 1—VI—1958), 箕谷 (lex., 6—VI—1948)。

以上兵庫県下産アシナガコガネの分布を眺めて見たが分布の良くわからないのがアシナガコガネで他の2種クロアシナガコガネは山地に多く産し, ヒメアシナガコガネは県下全域に普通に産することがよくわかる

(11—V—1982)。